取扱説明書（ダイハツ編）

G-scan

もくじ

ご使用になる前に

本取扱説明書では、ダイハツ車の診断機能に関してご説明させていただきます。ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しく安全にお使いください。本体の基本的な操作は、本体の取扱説明書をご覧ください。

株式会社インターサポート

■ 本製品を安全にお使いいただくために、お使いになる前に、必ず本取扱説明書ならびに添付のその他の取扱説明書を必ずお読みください。

■ 本取扱説明書および添付のその他の取扱説明書では、人に対する危害や財産への損傷を未然に防止するために、危険を伴う操作、お取扱について、次の記号で警告または、注意しています。内容をよくご理解の上で本文をお読みください。

	警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

	注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

以下に述べられている警告や他の案内を無視した事が原因となる製品の損害や、被害などに関しては、当社は一切責任を負いません。

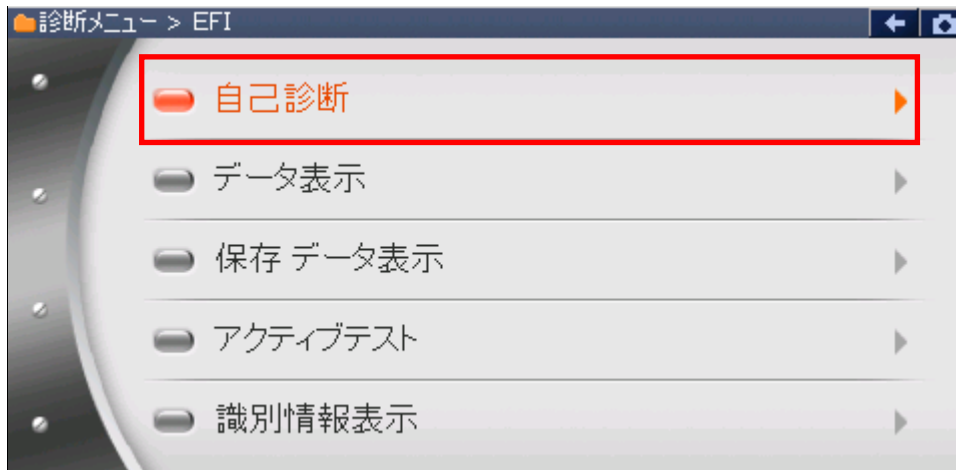
警告

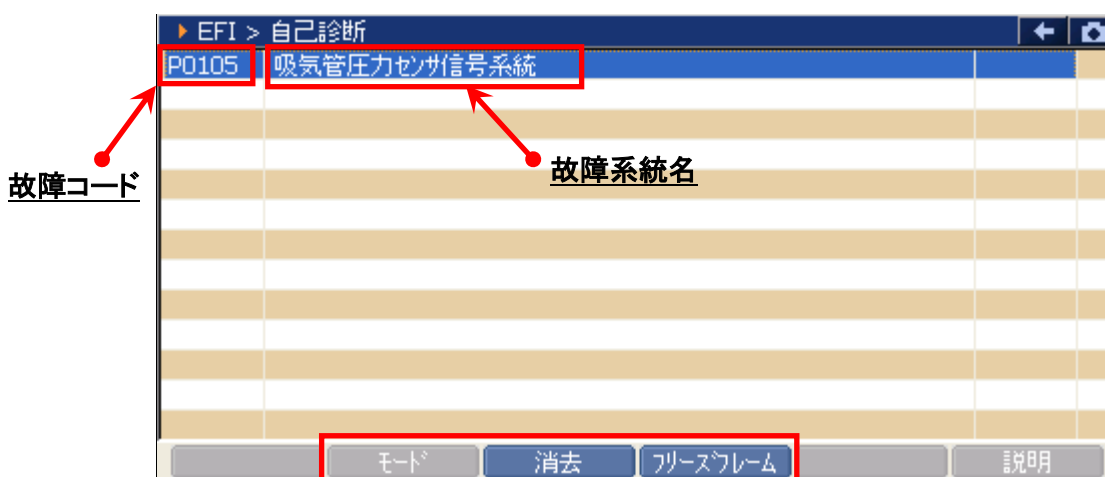
- 走行状態でご使用になる場合には、必ず運転者、操作者の2人でご使用ください。操作に気を取られて事故につながる恐れがあります。
- アクティブテスト、作業サポートはダイハツのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。
- アクティブテスト、作業サポートは車両が正常な状態(ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時)および、車両停止状態(パーキングブレーキをかけて、輪留めをする)で実行してください。

注意

- ダイハツ車または、ダイハツ製造のOEM車以外に使用しないでください。

診断機能

1）診断メニューにおいて『自己診断』選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：診断メニューにて自己診断を選択〉

2）自己診断画面が表示され、記憶された故障コードが表示されます。

〈図：自己診断画面〉

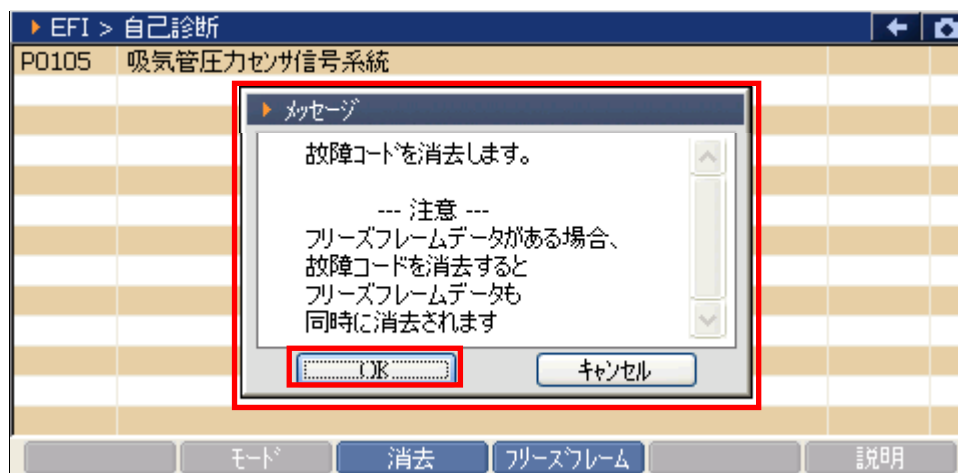
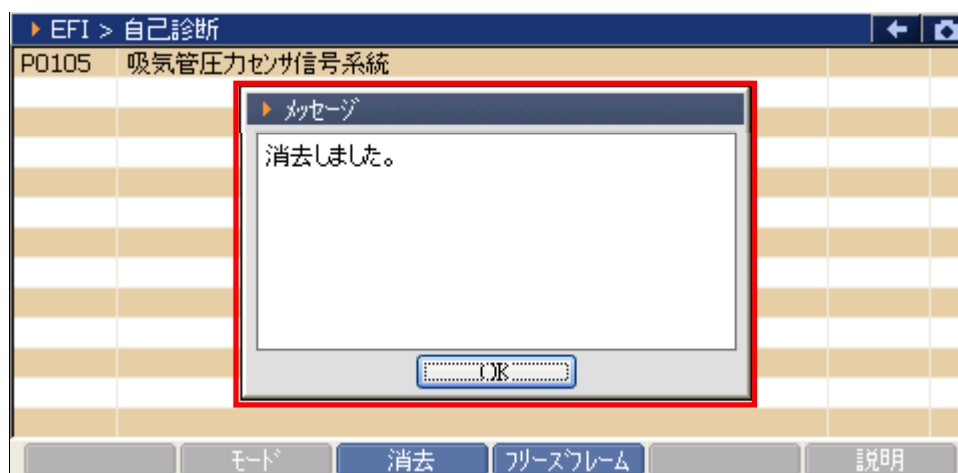
故障コード ： ダイハツ独自の故障コードNo.、又はSAEコード（例：P0135）が表示されます。

故障系統名 ： 故障系統名が表示されます。
故障内容の詳細に関しては、ダイハツのサービスマニュアルをご参照ください。

消去　自己診断記憶を消去します。【詳細はP9　3)を参照】

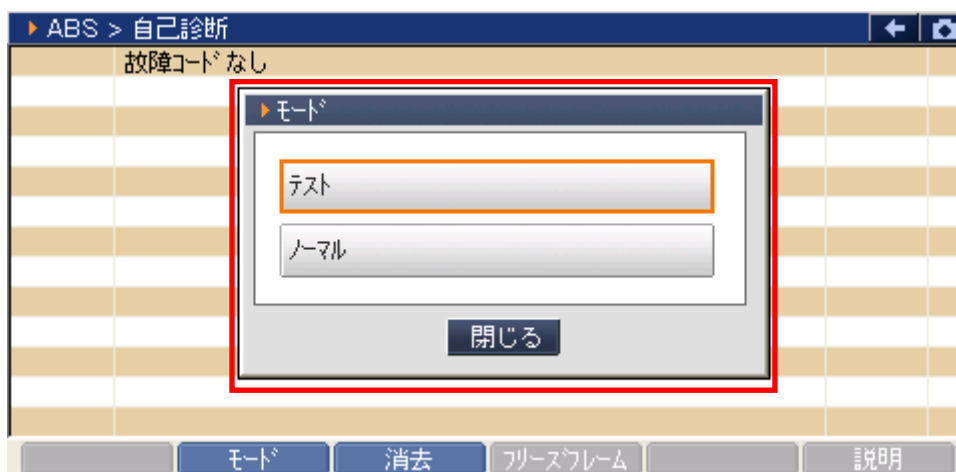
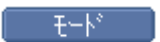
ﾌﾘｰｽﾞﾌﾚｰﾑ　フリーズフレームデータを表示します。【詳細はP12を参照】
EFI、A/T、CVT、ABS、DVS、EPSのみ対応です。

ﾓｰﾄﾞ　モードを切替えます。【詳細はP10を参照】
ABS、DVS、EPSのみ対応です。

3）消去ボタンをタッチ、又はF3ボタンを押すと故障コードを消去します。以下の画面が表示されますので、よろしければOKボタンをタッチして故障コードを消去してください。

〈図：故障コードの消去〉

〈図：故障コードの消去完了〉

■ モード ボタンの詳細

① モード ボタンをタッチ、又は F2 ボタンを押すとノーマルモードとテストモードの切替えが行えます。

以下の画面が表示されます。切替えるモードを選択してモードの切替えを行ってください。

〈図：モード切替〉

〈図：チェックモード（テストモード）での表示〉

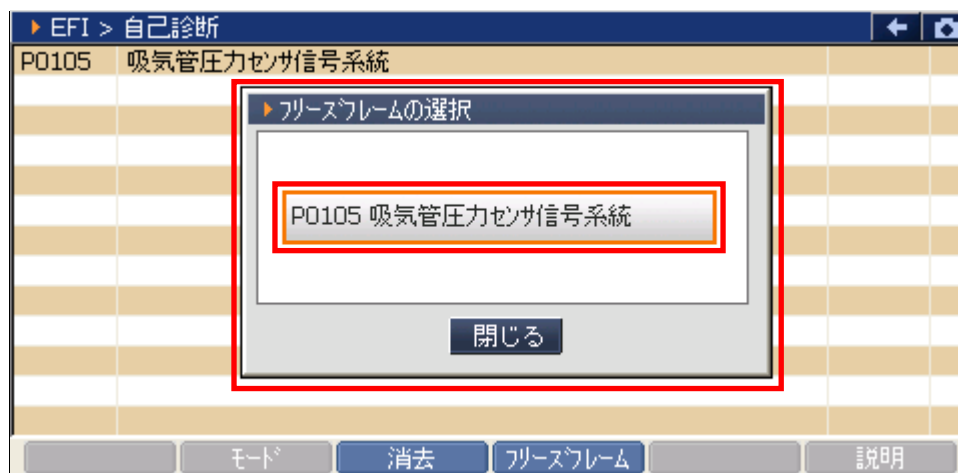
※注意と補足※

- モード切替え機能はABS、DVS、EPSのみの機能です。
  ABS、DVS、EPS以外のシステムでは ﾓｰﾄﾞ ボタンは表示されません。
- テストモードとは、定められた手順に従って車両を操作し、各センサのチェックを行う機能です。テストモードを実行すると、異常でなくてもテストモードコードを出力することがあります。
- ABS、DVS、EPSでは故障コードの消去後自動的にテストモードに切替わる車両があります。その場合は、 ﾓｰﾄﾞ ボタン、又は F2 ボタンでモード切替えを行ってノーマルモードに切替えれば解除できます。 ﾓｰﾄﾞ ボタンが表示されない場合は、以下の解除方法を参照してテストモードを解除してください。

<テストモード解除方法>

ABS	ハンドルを直進状態にして45km/h以上で2秒以上走行してください。
DVS	20km/hで5秒以上の走行を含むテストモードの手順を実行する。 (テストモード手順の詳細に関してはダイハツのサービスマニュアルをご参照ください)
EPS	20km/hで2秒以上走行してください。

■ フリーズフレーム ボタンの詳細

① フリーズフレーム ボタンをタッチ、又は F4 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。フリーズフレームデータを表示する故障コードを選択してください。

〈図：表示するフリーズフレームデータの選択〉

② 故障コードを選択すると、フリーズフレームデータが表示されます。

戻る ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押すと自己診断画面に戻ります。

〈図：フリーズフレームデータの表示〉

※注意と補足※

- フリーズフレームデータとは故障コード発生・検出時のデータが各システムのコントロールコンピュータによって記憶されたものです。記憶されるデータの種類は車載の各システムのコントロールコンピュータによって決められていて、故障コードの種類には関係なく決まった種類のデータが記憶されます。
- フリーズフレームデータは故障コード発生と同時に記憶されます。（EPSでは最新と1つ前のフリーズフレームデータが表示できる場合があります。）
- フリーズフレームデータは故障コードを消去する時に同時に消去されます。

警告

- 作業サポートはダイハツのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- 作業サポートは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。
- 作業サポートを実行する場合は必ず車両を以下の状態にしてください。
  車両をこの状態にできない場合は作業サポートを実行しないでください。
  1．車両停止状態。（パーキングブレーキをかけて、輪留めをする）
  2．ブレーキペダルを踏込む。
  3．ギア位置はPレンジまたはNレンジにする。

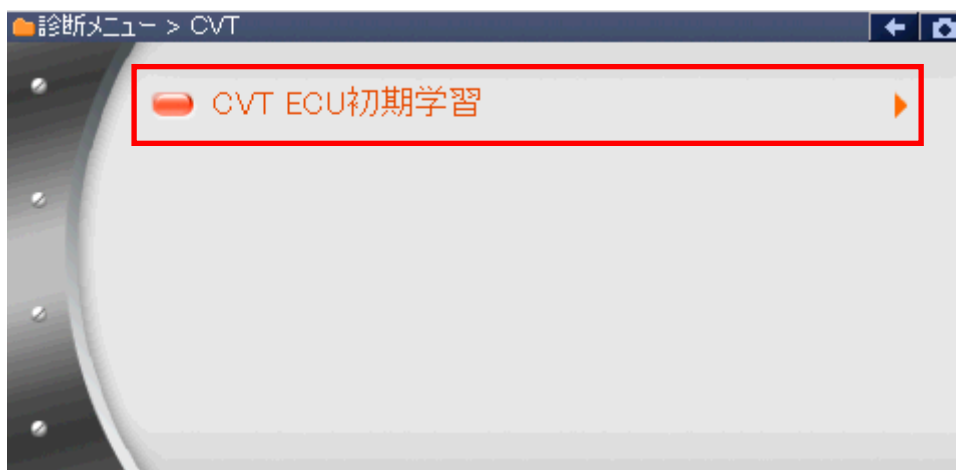
≪システム別作業サポート項目一覧≫

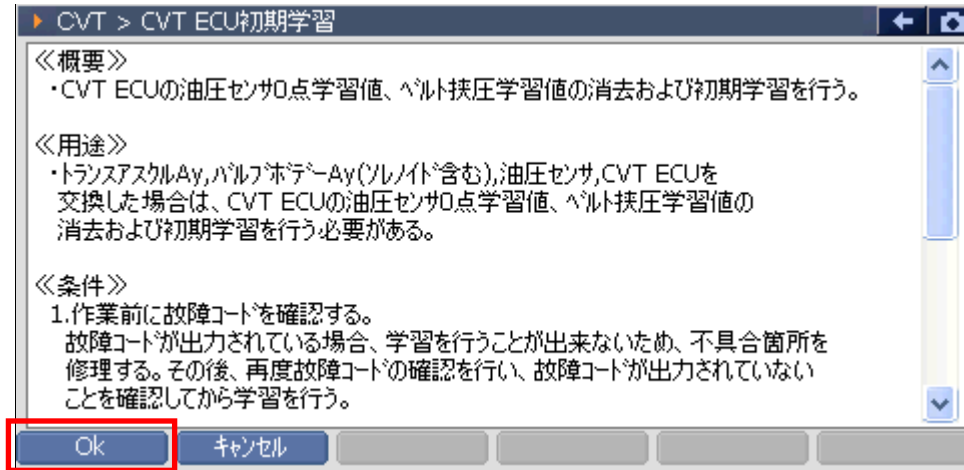
システム名	作業サポート項目名	概略説明
CVT	CVT ECU 初期学習	CVT ECU の油圧センサ0点学習値、ベルト挟圧学習値の消去および初期学習を行う機能です。
ABS、DVS	2 次系エア抜き	2次系油圧回路アクチュエータ内のバルブを駆動することでアクチュエータ内のエア抜きを補助する機能です。
レーダクルーズ	レーダクルーズ光軸調整	レーザレーダセンサの光軸調整作業に必要な光軸ズレ量を表示する機能です。
電格ルーフ	ルーフ ECU 初期化	ルーフ ECU のルーフとサイドラッチの位置情報を初期状態にする機能です。

≪例1≫CVTシステムの作業サポート「CVT ECU初期学習」を実行する場合

1) 診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して ENTER ボタンを押してください。

〈図:診断メニューにて作業サポートを選択〉

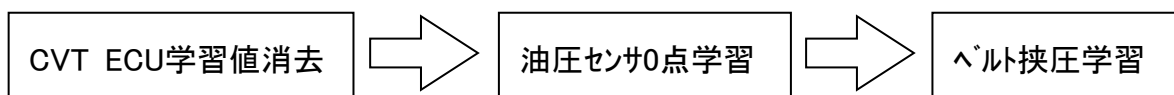
2) 作業サポート項目選択画面から『CVT ECU初期学習』を選択して ENTER ボタンを押してください。

〈図:作業サポート項目選択画面〉

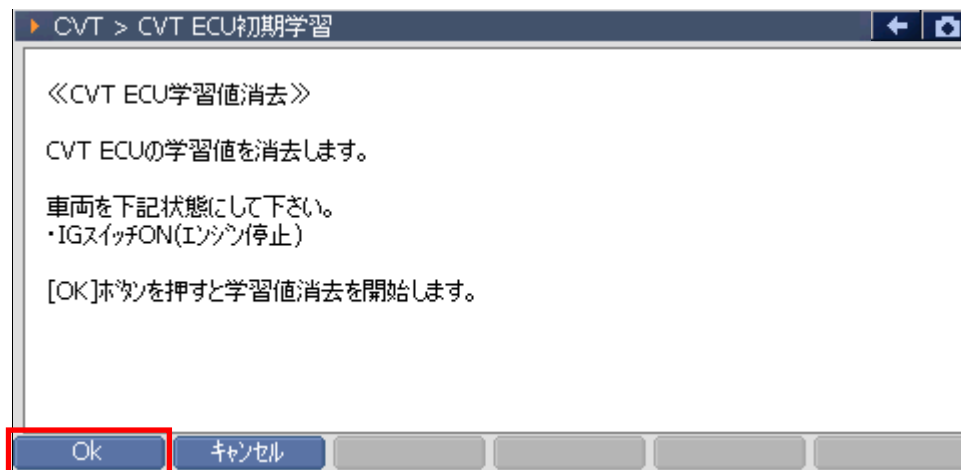
3）確認メッセージ画面に移ります。確認メッセージが表示されますので、内容をご確認いただき、よろしければ Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押し、画面の指示に従って作業サポートを実行してください。

〈図：確認メッセージ画面　CVT　ECU初期学習〉

※注意と補足※

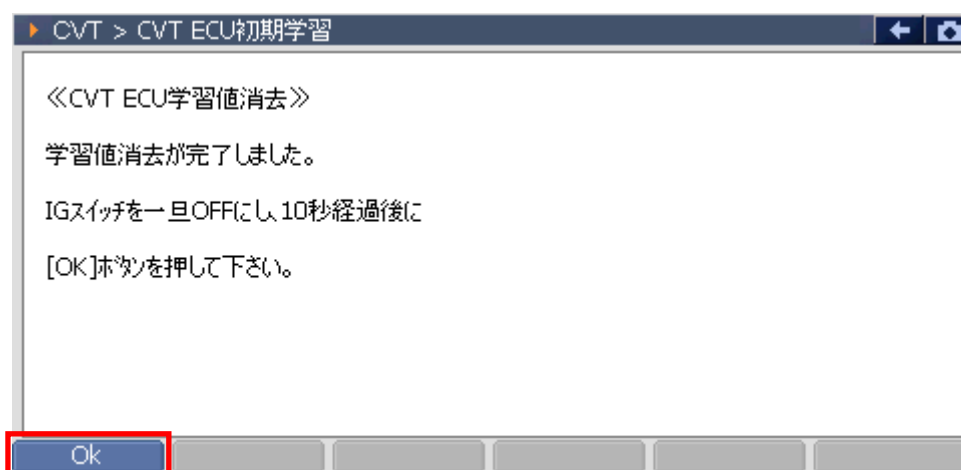
・ 確認メッセージは必ず最後までご確認ください。

手順通りに実施しないと、正常に動作しない場合があります。

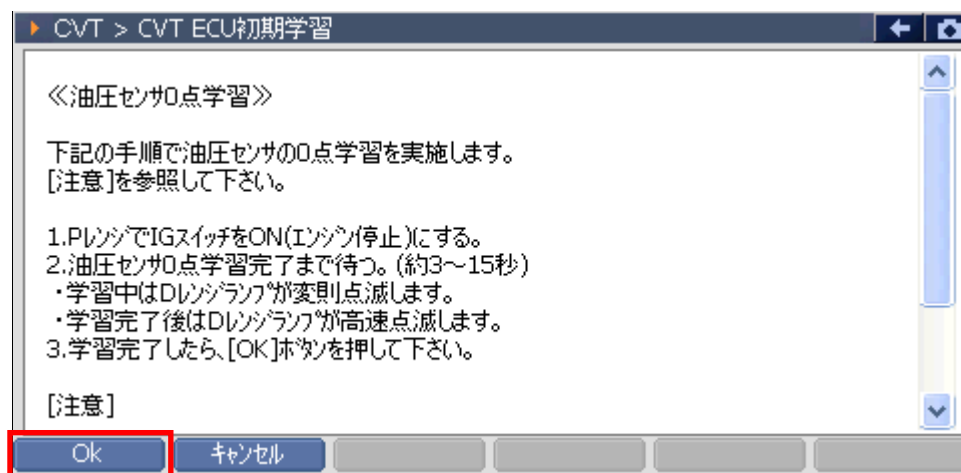
・『CVT　ECU初期学習』では下記の手順で初期学習を行います。

4）「CVT ECU学習値消去」を行います。

学習値を消去してもよろしければ、 Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：CVT ECU学習値消去画面〉

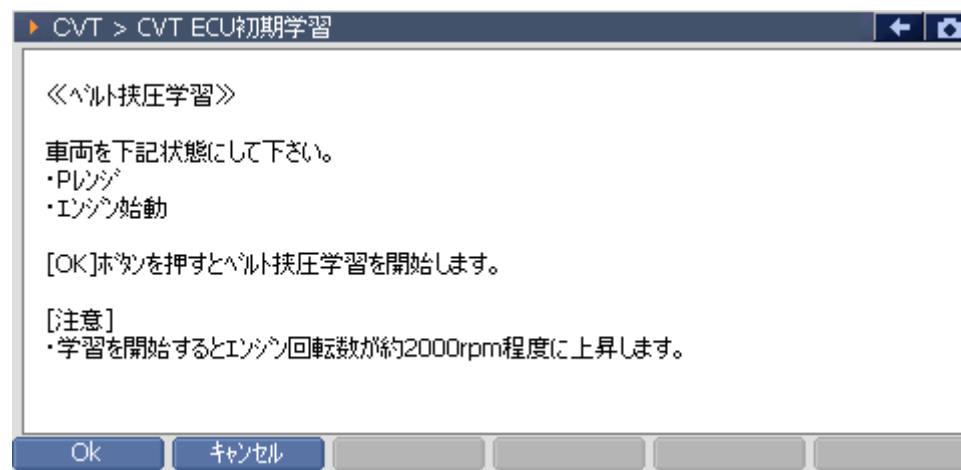
5）学習値の消去が正常に完了すると下記の完了通知画面に移ります。

IGスイッチを一旦OFFにし、10秒経過後に Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：学習値消去完了通知画面〉

6）次に「油圧センサ0点学習」を行います。

確認メッセージ画面の内容をご確認いただき、よろしければ Ok ボタンをタッチ、又は FI ボタンを押してください。

〈図：確認メッセージ画面　油圧センサ0点学習〉

7）次に「ベルト挟圧学習」を行います。

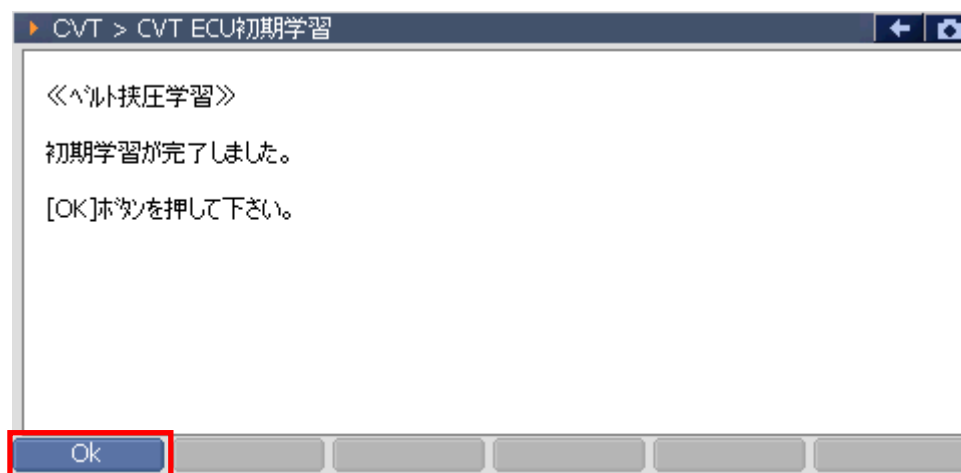
確認メッセージ画面の内容をご確認いただき、よろしければ Ok ボタンをタッチ、又は FI ボタンを押してください。

〈図：確認メッセージ画面　ベルト挟圧学習〉

※注意と補足※

・ 確認メッセージは必ず最後までご確認ください。

手順通りに実施しないと、正常に動作しない場合があります。

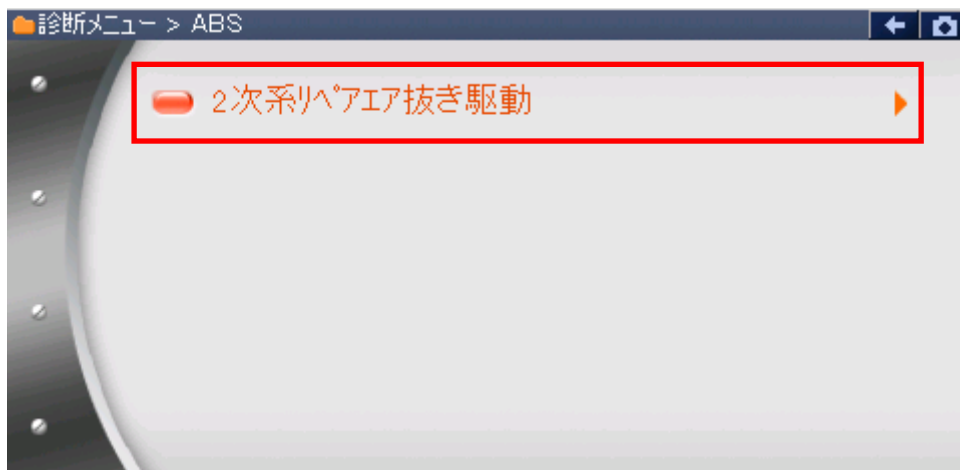
8）「油圧センサ0点学習」「ベルト挟圧学習」が正常に完了すると下記の初期学習完了画面が表示されます。

Ok ボタンをタッチ、又は FI ボタンを押して、『CVT ECU初期学習』を終了します。

〈図：初期学習完了画面〉

≪例2≫ABSシステムの作業サポート「2次系リペアエア抜き駆動」を実行する場合

1）診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して ENTER ボタンを押してください。

〈図：診断メニューにて作業サポートを選択〉

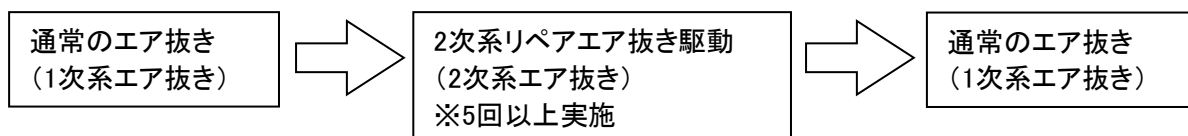
2）作業サポート項目選択画面から『2次系リペアエア抜き駆動』を選択して ENTER ボタンを押してください。

〈図：作業サポート項目選択画面〉

※注意と補足※

・ 2次系リペアエア抜き駆動はABS搭載車で2次系油圧回路にエアの混入が考えられる場合にアクチュエータ内のバルブを駆動することでアクチュエータ内のエア抜きを補助する機能です。通常のエア抜き（1次系）作業時にはこの手順は実施せずに、通常のエア抜きを行ってください。

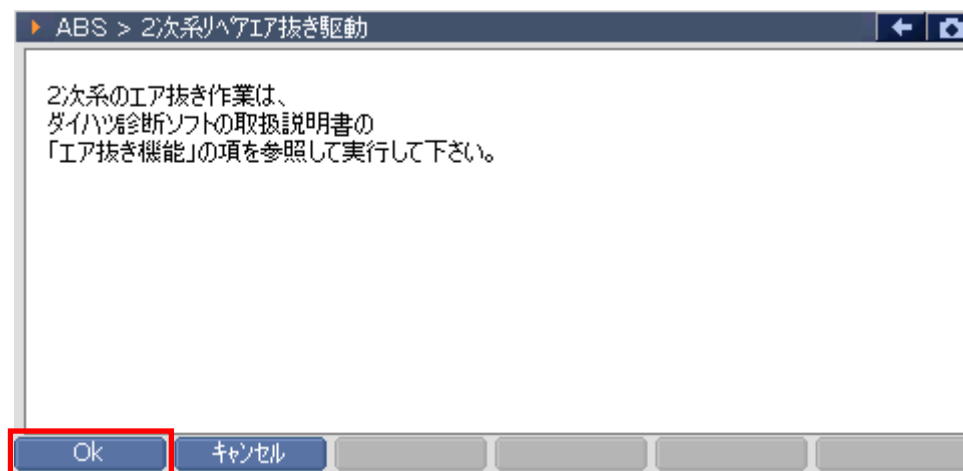
<手順概略>

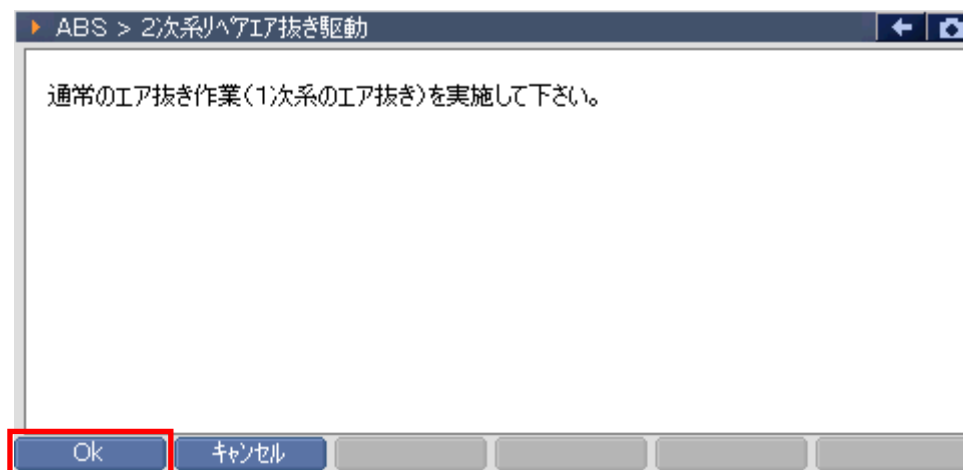
エア抜きは以下の手順で実行してください。

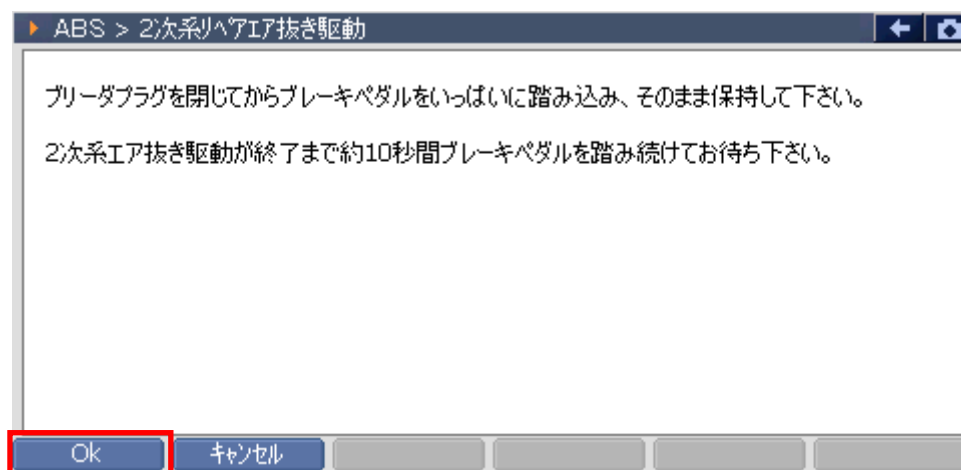
尚、エア抜き中は適量のブレーキ液がマスターシリンダーのリザーバーを満たしている事に常に注意してください。

警告

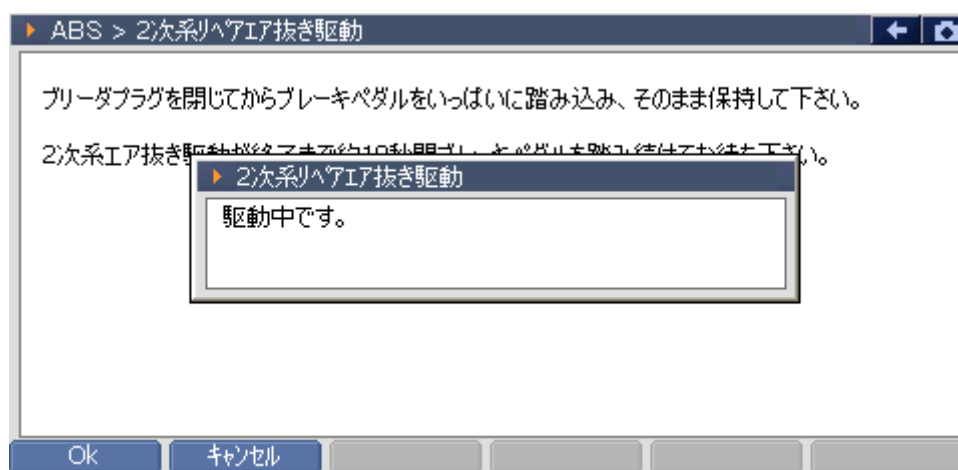
- エアが完全に抜けていないと車両に悪影響を及ぼすだけでなく、ブレーキ回路に支障をきたし、正常なブレーキ作動ができなくなり、交通事故を引き起こす原因となります。

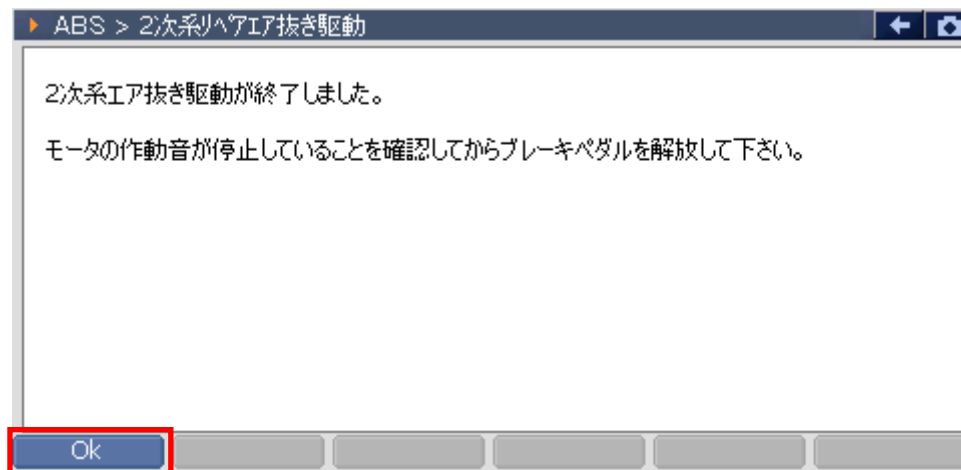
3）2次系リペアエア抜き駆動の確認画面が表示されます。

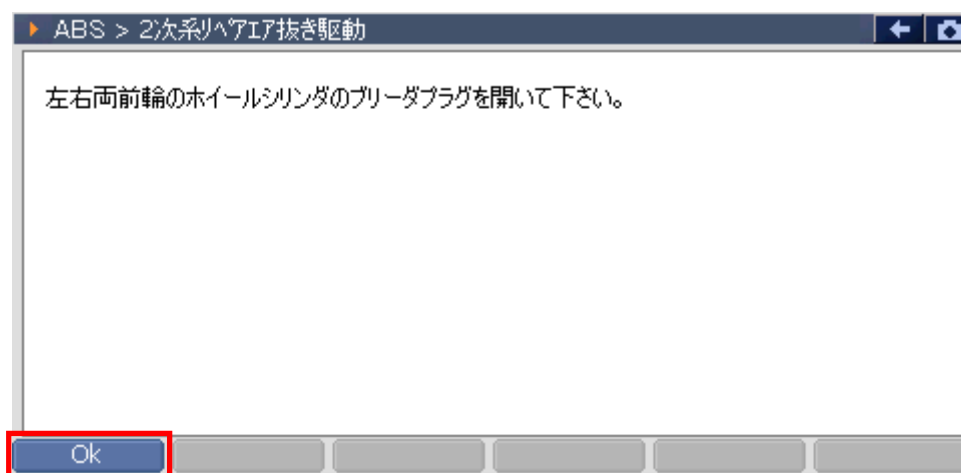
Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：2次系リペアエア抜き駆動画面〉

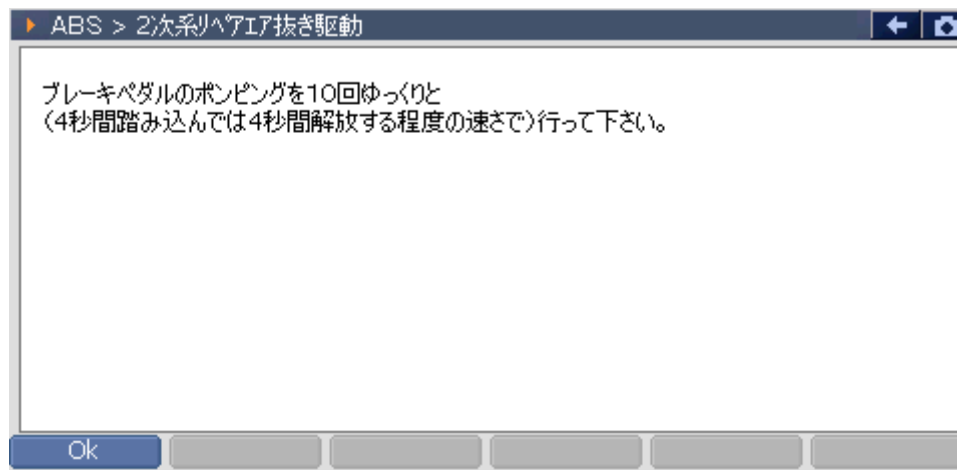
4）通常のエア抜き作業（1次系エア抜き）を行ってください。通常のエア抜きが終了したら Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：2次系リペアエア抜き駆動画面〉

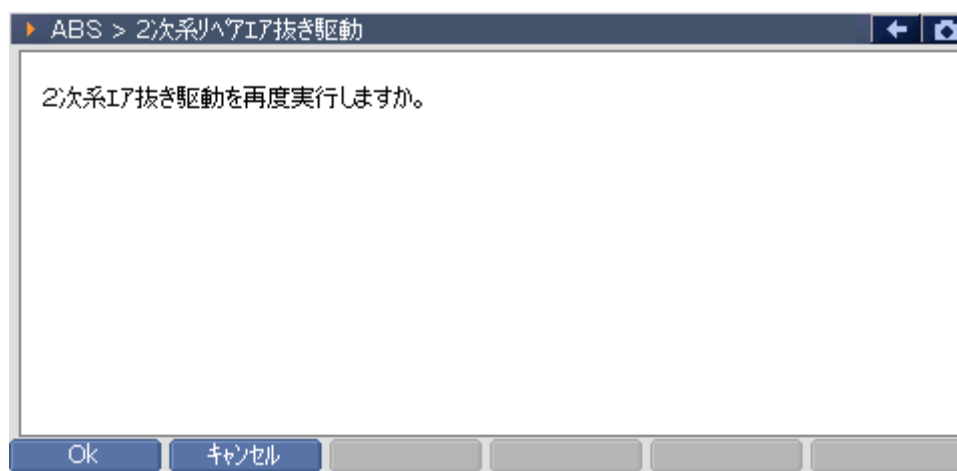
5）2次系エア抜きの実行前準備をします。ブリーダプラグを閉じてブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだまま保持して Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。この時、ブレーキペダルは196N（20kgf）以上の力で踏み込んでください。

〈図：2次系リペアエア抜き駆動画面〉

6）バルブおよびモータの駆動が実行され、以下の画面が表示されます。約10秒以上ブレーキを踏み続けてください。

〈図：2次系リペアエア抜き駆動画面〉

7）約10秒でバルブおよびモータの駆動が終了します。モータが停止していることを確認してから、ブレーキペダルを放してください。ブレーキペダルを放したら Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：2次系リペアエア抜き駆動画面〉

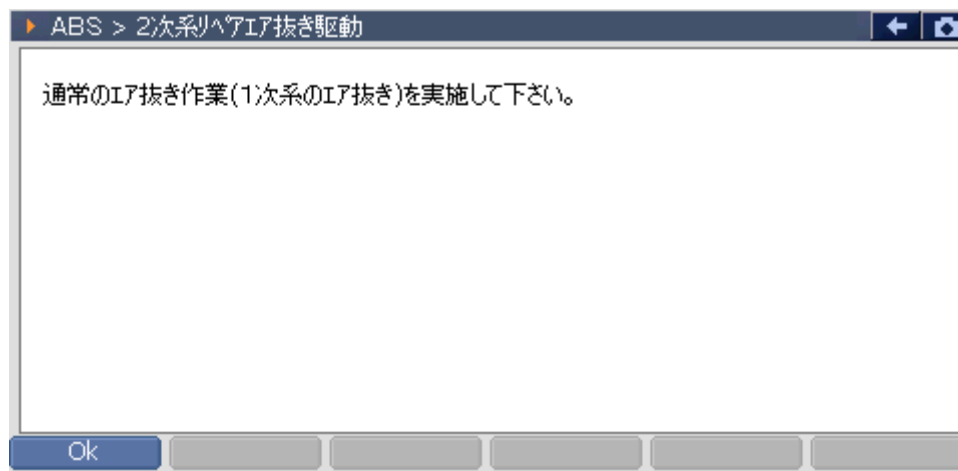
8）左右前輪ホイールシリンダのブリーダプラグを開いてください。ブリーダプラグを開いたら Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：2次系リペアエア抜き駆動画面〉

9）ゆっくりとブレーキペダルのポンピングを10回行ってください。（4秒間踏み込んで4秒間開放する程度の速さで行ってください。）ポンピングが終了したら Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。

〈図：2次系リペアエア抜き駆動画面〉

10） 以下の画面が表示されます。Ok ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押しすと、4）の2次系エア抜き実行前準備の画面が表示されますので4）～9）の作業を最低5回以上実施してください。5回以上実施して、エアが出なくなることを確認したら ｷｬﾝｾﾙ ボタンをタッチ、又は F2 ボタンを押してください。

※注意と補足※

・ 4）～9）の作業は必ず5回以上実行してください。

アクチュエータ内のエアが抜けきらない場合があります。

11） 最後に通常のエア抜き作業（1次系エア抜き）を行ってください。

〈図：2次系リペアエア抜き駆動画面〉

株式会社 インターサポート

〒310-0836

茨城県水戸市元吉田町329-5

Tel 029-248-0616　Fax 029-248-1609

http://www.inter-support.co.jp

製品保守センター

（修理のお問合せはこちら）

Tel 029-304-0185

サポートセンター

（製品のご相談・ご質問はこちら）

Tel 0570-064-737 （ナビダイヤル※）

Fax 029-304-0167

※IP電話・PHSからはご利用出来ませんので、FAXでお問い合わせください。

2014年2月発行　第16版

本書に記載の製品、製品仕様、および使用方法は改良のために、将来予告なしに変更される場合があります。　G1PZFDN001-8-16